

# 答 辞

記録的な大雪の冬を乗り越え、日毎に柔らかな日差しに囲まれて春を感じられる今日ここに、このような盛大な卒業式を挙行して頂き、私たち卒業生一同心より感謝しております。

職藝学院でのこの二年間を振り返りますと、何故そうなるのかという疑問に答えてもらえる先生方や、様々なキャリアを持った仲間達との交流を中心として、とても充実した中身の濃厚な時を過ごすことができました。

私達をご指導いただいた多くの方々は、それぞれの分野の本質を心得て、知識やルールなどの実践経験に基づき、優しく、時には厳しく導いてくださいました。

自分の大工道具を手にした入学直後、言葉には言い表せないほどの興奮を感じたものです。しかしその興奮も、道具の手入れや刃物研ぎが始まって挫折感に変わり、体験すること、本物を知ることの大切さと厳しさを知りました。

実際に身体（からだ）で身につけたことでなければ、自分のものとはならず、まして人に伝えることもできないことを痛切に感じたものです。

また、人との繋がり、人との絆の大切さを学んだことも学院生活における大きな成果です。

個人の能力ではかなわないことも、人との連携、結（ゆい）によって小さな力を大きな力に変えて限界を突破出来るということ学びました。

このような達成感と充実感の中、卒業の日を迎えることが出来ましたのは、素晴らしい教育環境を作ってくださいました教職員の皆様、そして私達を励まし暖かく見守り支援していただいた各方面の皆様方のお陰だと深く感謝しております。この場をお借りして心より深くお礼申し上げます。

本日、この場より社会人としての第一歩が始まります。これ迄のまわりから守られてきた立場から巣立って、プロとして自覚を持ち、自分の仕事を誇れる職藝人を目指して日々精進していく覚悟です。

険しい道のりだとは思いますが、この学院で学んだ事が、これからの私たちにとって何事にも代え難い貴重な糧になると思います。

尚、この度の東北関東大震災のため、残念ですが出席できない仲間がいます。被災された多くの皆様、そして関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧を願っています。

最後になりましたが、本日もご列席の来賓各位、諸先生方、そして事務局の皆様方の御健勝と御多幸を心よりお祈り申し上げますと共に、職藝学院が益々発展されますよう祈念して、答辞と致します。

平成二十三年三月二十日

職藝学院 建築職藝科

卒業生代表

飯塚 猛雄